

<台南芸術大学交換留学体験記 第二号 2022年9月；渡航、隔離、新学期>

三宅志佳

コロナ禍で飛行機はガラガラだった。桃園空港には留学生のためにスタッフが待機しており、説明を受けながらSIMカードを買ったりPCR検査を受けたりした。その後、防疫タクシーに乗って台南の隔離ホテルへ向かった。高速道路で休憩無しの4~5時間はなかなかしんどかった。隔離ホテルは広い部屋で快適だった。窓も大きいので日光がよく入り、一日中部屋にいるにもかかわらず生活リズムは狂わなかった。台湾のトイレには紙が備え付けられていないことが多いが、ホテルの部屋に置いてあるティッシュペーパーがトイレットペーパーも兼ねていると気づくまで時間がかかった。

大学から事前に紹介されていた人に校内を案内してもらいながら入学・入寮手続きをした。台湾の大学には寮があるのが普通だ。二人部屋だと聞いていたが、部屋割りシステムのミスで一人になっていた。台湾は夜型生活が主流で皆かなり遅くまで起きているが、私は朝方人間なのでルームメイトが居なくて運が良かった。私の住んでいた第6寮は、部屋は個室だが風呂トイレは共同だった。各フロアにトイレとシャワーが4つずつと洗濯機・脱水機・乾燥機が一つずつあり、混むことはほとんど無かった。学食では一食300円※から美味しくバランスの良い食事が取れる。昼夜の学食のおかげで、日本にいた時と比べて腸内環境が明らかに改善した。自炊は面倒なので朝ご飯だけ麺を茹でて食べていた。金曜の夕方から日曜にかけては開いていないので、その間は校内のセブンか外食か自炊だった。

元々の計画では半年早く休学してその間に中国語力を上げておく予定だった。しかし、留学の申請結果が出るのが遅かったので大事を取って早めの休学はせず、あまり準備に時間を割けなかった。最低限の会話はできる(?)が授業内容は半分くらい聞き取れず、後から先生にスライドをもらったり同級生に説明してもらったりしていた。聞いて分からない時はスマホに字を打ち込んでもらうことが多かった。発音を知らず単語が聞き取れなくても、読むと意味が分かることは多い。中国語が聞き取れない時相手が英語で話してくれることもあったが、皆発音が綺麗で驚いた。私の方も単語が分からない時に英語で言おうとするが、発音が残念であり通じなかった。中国語の発音の方がまだマシだったため、相手は英語で話しこちらは中国語で返すという会話が時々発生した。

授業は一コマ50分で、大体2-3コマ連続だ。ついていけないと怖いので少なめにとったが、実技がほとんどなので時間外の作業も多かった。時間割を見た同級生からは「コマ数は少ないけど大変な授業ばかり取ったね」と驚かれた。渡航前に中国語のシラバスをGoogle翻訳にぶち込みながら一人で選んだので、今考えるとアドバイスをくれる人が居れば良かったと思う。



写真は空港で貼られたシール 左は留学生のみ、右は到着後のPCR検査が完了した人全員に

※1円=4.5円で計算